

1 役割

- (1) 居場所づくり（安心・安全な環境をつくる）
- (2) 体験活動（活動を通して人とつながり、人間的な成長を目指す）
- (3) 学習活動（学力の向上を図り、進路選択の可能性を広げる）

学校生活への復帰を支援するという適応指導教室の趣旨は変わりませんが、教室それぞれが中心となる指導方針を定め、その方針に沿いながら、時には臨機応変に柔軟な運営を行っています。

運営に当たっては、学校や保護者に対して趣旨や方針を説明し、理解を得て運営することが大切です。また、通級する子どもの状態に応じた対応が求められることもあり、学校や家庭との連携も重要です。

(1) 居場所づくり

	特 徴	課 題
A. 学校と違う雰囲気づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校そのものに抵抗がある子どもにとっては、安心して過ごせ、エネルギーを蓄えることができる。 ・学校とは違う雰囲気の中で学習や活動を行うことで、集団生活への適応を促すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地のよさから、子どもが<u>学校復帰への一歩を踏み出す機会を遅らせることもある。</u> ・子どもの気持ちを尊重しながら、学校と連携してスモールステップで目標を立て、学校復帰を促す。 ・学習に取り組みたい子どもには適応指導教室と学校の別室の併用を勧める。
B. 学校復帰を強調しない	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを丸ごと受けとめることを最優先するため、安心感を与えることができる。 	
C. 柔軟に受け入れる	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の子どもの状況や希望に可能な限り添うことで、活動できる場を提供できる。 	

○学校と違う雰囲気づくり（例）

- ・安心できる環境を作る。

調理スペースの設置 ↓

↓畳敷きで車座になれる



民家を借り上げる ↑



子どもが製作したクッションでくつろげる空間に →



↑手作りの仕切りで部屋を区切り、使いやすく

○学校復帰を強調しない（例）

- ・カリキュラムを決めず、やりたいことを自分で決めさせる。（自己選択・自己決定）
- ・学校の受入れ体制が整うまでは学校への復帰を第一とせず、将来を見据えて社会性や自立心を育てるというスタンスで支援する。

○柔軟に受け入れる（例）

- ・開室時間内ならいつでも受け入れる。「30分でもいいから来てみない？」
- ・学校で受けられないテストを別室で受けられるよう配慮する。
- ・指導員やボランティアが学校への登校に付き添う（クラブや運動会の練習時）。
- ・まずは1対1で対応し、徐々に少人数での活動へ移行。できることから始める。 など

改善点を示しています。

(2) 体験活動

	特 徴	課 題
A. 年間行事予定に体験活動を組み込む	<ul style="list-style-type: none"> 1年を通しての活動内容が分かることで、通級の意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定の計画に時間を要する。
B. 日課表に帯タイムを組み込む	<ul style="list-style-type: none"> 他の子どもとコミュニケーションをとる機会を作る。 毎日決まった時間に共に活動することで、他の子どもとつながるきっかけとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の子どもとの関係づくりが上手くいかないと感じづらい。
C. 地域の施設を活用する	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室とは違う雰囲気で行うことができる。 地域の方を講師に迎えることで連携が深まる。 	<ul style="list-style-type: none"> 適応指導教室から離れている場合は移動に時間がかかり、活動が制限される。
D. 転地学習を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> 活動場所が変わり、子どもの気持ちを転換できる。 教室ではできない体験や、直接体験の機会をを広げ、子どもの自立心を育む。 生活習慣を改善する。 新しい人間関係づくりが期待できる。 新規の子どもを適応指導教室につなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 帯同できるスタッフの数や予算等により、実施の可否が左右される。

○日課表に帯タイムを組み込む（例）

	月	火	水	木	金
9:30～	朝の連絡				
9:35～	帯タイム				
10:30～					帯タイム
11:20～					
昼休み					

活動内容（例）

- 朝学習（提出物の仕上げ、テスト勉強など）
- 季節行事（お楽しみ会、百人一首大会など）
- 創作活動（デッサン、書写、砂絵、絵馬など）
- 調理実習（カレー、豚汁、ぜんざいなど）

○体験活動（例）

- ミニトライやる（こども園、高齢者施設、田植え、稲刈り）
- キャンプ（キャンプファイヤー、スタンプ）、ウォークラリー
- 乗馬、スケート、アーチェリー、レガッタ、カヌー、カッター
- 紙すき、餅つき、陶芸、しめ縄飾り、籠編み、布草履

〈野菜栽培〉

畝作り、種まきから水やり、草取り。収穫した野菜で調理実習や鍋パーティーを開催。年間を通して活動↓



←子どもの切り紙作品で壁面を飾る



←絵を描いたり工作をしたり、自分の好きなものづくりに没頭



○転地学習を取り入れる（例）

- 不登校・不登校傾向の子どもたちは、直接体験の不足、生活習慣の乱れ、希薄な対人関係等により自立の意欲に欠ける傾向がある。子どもの意欲を高める小集団体験活動を行い、心と体のバランスがとれた成長を促す。地域の施設を活動拠点として活用する。

明石市： もくせいサテライト教室（年間9回、10時～14時、野外炊飯、レクリエーションなど）

加古川市： アタック・ゴー（年間6回、1泊2日、グループワークを取り入れている）

姫路市： ワンデーチャレンジ（年間5回程度、大人数が苦手な子に対しては別の企画を実施）

【子どもたちの声】

- 知らない人と話せるようになってよかった。
- 家ではできないことがたくさんできた。
- 自分たちでやると、達成感があった。
- やっぱりあきらめないことは大切だと思った。

【指導者からの声】

- 集団の中で過ごすことが苦手な子どもが、みんなの中で過ごせており嬉しくなった。新たな発見ができた。
- いつもと違うメンバーとふれ合う姿が見られ、一つの活動にみんなで行く姿に感動した。

■子どもの声、■指導者からの声を示しています。

(3) 学習活動

ア 1日の流れについて

	特 徴
A. 時間割がある	<ul style="list-style-type: none"> 1日の活動内容と流れが分かり、子どもも保護者も見通しを持ちやすい。 学習時間を明確に設定し、学力の向上を図る支援ができる。
B. 午前・午後といたた大きくくりで動いている	<ul style="list-style-type: none"> 一つの活動にじっくり取り組める。 1日は通級出来ない場合でも、子どもの状態に合わせて午前か午後を選ぶことができる。
C. 児童生徒のペースで自由にしている	<ul style="list-style-type: none"> 子ども個々の通級時間が異なる場合でも指導員が対応できる。 子どもの状態を考慮し、子どもの意思を尊重できるため本人への負担が少ない。

○時間割がある（篠山市）

日 課 表					
	月	火	水	木	金
9:00 ~10:00	朝の連絡 会話・ゲーム		チャレンジ木曜日 学校への登校にチャレンジしよう (適応指導教室は通常どおり開室 する場合も閉室する場合もある)	朝の連絡 会話・ゲーム	
10:00 ~10:50	自主学習Ⅰ			自主学習Ⅰ	
11:00 ~11:50	自主学習Ⅱ			自主学習Ⅱ	
12:00 ~13:00	昼食 昼休み			昼食 昼休み	
13:00 ~13:30	読書タイム			読書タイム	
13:40 ~14:50	自主学習Ⅲ又は 軽運動・スポーツ 創作・体験活動			自主学習Ⅲ又は 軽運動・スポーツ 創作・体験活動	
14:50 ~15:00	一日の振り返り			一日の振り返り 清掃活動	

<子どもが自分でつくる日課表>

↑自分のしたいことを指導員と話し合い、その日の活動計画を立てる。

・朝にゲームをすると学習に結びつきにくいのが現状。午前は自主学習、午後は活動的な内容がよいのではないかと考え、カリキュラムの見直しを考えている。

○時間割に教科名を明記する（尼崎市）

時間		月	火	水	木	金
9:30~	朝の会					
9:35~	はつらつタイム					スポーツ
10:30~	学習1	社会	英語	国語	数学	はつらつタイム
11:20~	学習2	国語	数学	理科	英語	
13:00~	学習3	数学	理科	英語	国語	
13:55~	学習4	スポーツタイム		社会	スポーツタイム	

学習の遅れを補う
 ・学習の遅れが学校復帰妨げの要因の一つになっていることから、児童生徒の在籍校と連携を図り、授業進度や学校生活全般にわたる情報を得ながら個別指導を行って学校復帰を目指している。

通級に至らない子どもへの対応
 ・教室への通級が難しい子どもには訪問指導員が対応している。

○午前、午後の大きくくりで動く（例）

曜日	月	火~金
午前	個別学習	個別学習
午後	(学校訪問等)	個別学習・集団活動

指導員による学校訪問

個別学習…教科学習、読書、創作活動など
 集団活動…園芸、調理、スポーツ、ゲームなどの体験活動。

改善点を示しています。

イ 学習教材について

	特 徴
A. 学校と同じ教科書・問題集	・子どもに抵抗がない場合は、学校復帰を目指しての指導に適している。
B. 各自持参した教材	・自分のやりたい学習に取り組むことができる。
C. 教室独自で作成	・学習内容の選択肢が増える。 ・家庭学習等にも活用できる。
D. ネット教材の活用	・豊富な題材から、広く様々な分野の学習や活動に取り組める。

○教室独自で作成したプリント教材などを使って学習（例）

- ・「家庭学習プリント配信システム」を活用し、教材として活用する（神戸市、伊丹市、三木市）
- ・やまびこ学習プリント（算数（小1～6）数学・英語（中1～3））をホームページからダウンロード

ウ 指導形態について

	特 徴	課 題
A. 個に応じた指導をする	・個々の子どもの状況（特性、意欲、学習進捗等）に合わせた指導が可能である。	・1対1の対応であるため、多くの通級生がいる場合、指導員の人数により対応が難しい。
B. 一斉で指導を行う	・小集団活動により、人とかかわり人間関係づくりのスキルを身につけながら学校の雰囲気近づける。 ・指導員の人数が少ない場合でも、対応できる。	・本人が、人とかかわることが難しい段階の場合は活動に入ることができない。 ・プログラム内容を考える時間を捻出するのが難しい。

○個に応じた指導をする（例）

- ・一枚のプリントの問題数を少なくして達成感を味わわせる。
- ・やりたいことを本人に決めて取り組ませ、自分の得意な教科や分野の力を伸ばして自信を持たせる。
- ・子どもの希望を踏まえて個別支援の時間をすらす。
（1人の指導員でも個々の課題に対応可能）
- ・学校の先生に子どもが希望する教科の指導を依頼する。
- ・自主学習で明らかになった課題を学校で教わる。

プログラム内容を考える時間の捻出

- ・毎週決まった日の午後、子どもたちが帰宅してからプログラムを検討する。（家庭訪問、スタッフ会議、カウンセラーとの面談、学校との連携会議等もこの時間を利用して行う）。
- ・年度始めには1学期の、その後は学期終わりに次の学期のプログラムの時期や内容を考える。

○一斉で同じ内容の活動プログラムを行う（例）

- ・教科等の学習を意識して一斉で指導をする。
写真や共通の題で俳句や短歌づくり（国語）、手話（道徳）
調理実習・裁縫（家庭科）、木工・凧・コマ作り（技術）
リコーダー練習（音楽）、絵はがき作り・掲示物の作成（美術）
- ・人間関係づくりのスキルを学ばせる。
構成的グループエンカウンター、スクールソーシャルトレーニング
ストレスマネジメント など

<飛び出すカード>（美術）

それぞれが好きなテーマで作品を作り、部屋に飾る↓



改善点を示しています。